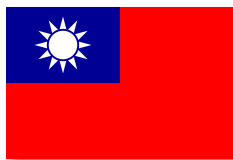


はばたけ！ 応化学生 3か国国際PBL@インドネシア・スラバヤ



応用化学科はイケイケどんどんで学生諸君のグローバル活動を後押ししています。ということで、本号も「**おーか・なう No.17**」に続いて「3か国交流」のレポートです！なんと今回は、本学応用化学科学部生7名がインドネシア第2の都市スラバヤ (Surabaya) に出向いて、**IT**~台湾科技大学 (NTUST) ~ウィデア・マンダラ・カトリック大学 (WMCU) の「化学系学生3か国国際PBL」にチャレンジしてきました(2月7日~15日)。

このプログラムは、インドネシアのトップレベル大学の一つである WMCU がホスト校となり、以前から同校と関係の深い NTUST が **IT** 応用化学科に呼び掛けて実現した(おそらく我が国初?の)「友だちの友だちは友だち！」3か国国際PBLとなりました。

研究設備が整ったスラバヤの WMCU キャンパスで、3大学の学生は“インドネシア原産農産物の食品加工”をテーマに、「果物の王様」ドリアンなど熱帯地方の果物を使って「環境に配慮した無駄のない農産物の利用技術」についての実験に取り組みました。具体的には、これまでは捨てられていた皮などの非食部分をどのように有効活用していくか、などについて3か国混成チーム内でアイデアを出し合い、その検証・評価実験を行う、というプログラムでした。現地では、この3か国の垣根を越えた取組みが地元メディアやオンラインニュースで大きく取上げられ、加工食品を試食する引率の村岡雅弘教授や本学学生の写真・コメントが大きく紹介されました。

この充実した体験を通じて、新たにインドネシアの友人もでき、将来は技術者として世界を舞台に活躍する夢を抱いて、7名の学生諸君は無事に帰国しました。これからもブラッシュアップしながら、応用化学科は3か国交流を深めていきます。毎度の言葉になりますが、志(こころざし)ある学生諸君は積極的に国際交流プログラムにチャレンジして下さい！



WMCU にて



ドリアンにチャレンジ！



これぞまさに国際交流！



講義のようす



実験結果プレゼンテーション



OIT-NTUST-WMCU 全員集合！